

資 料	No.
第 209 回神戸市 環境影響評価審査会	1

(仮称) 西神戸ゴルフ場を転活用した
産業団地整備事業

事後調査報告書 要約書
(令和 6 年度)

令和 7 年 12 月

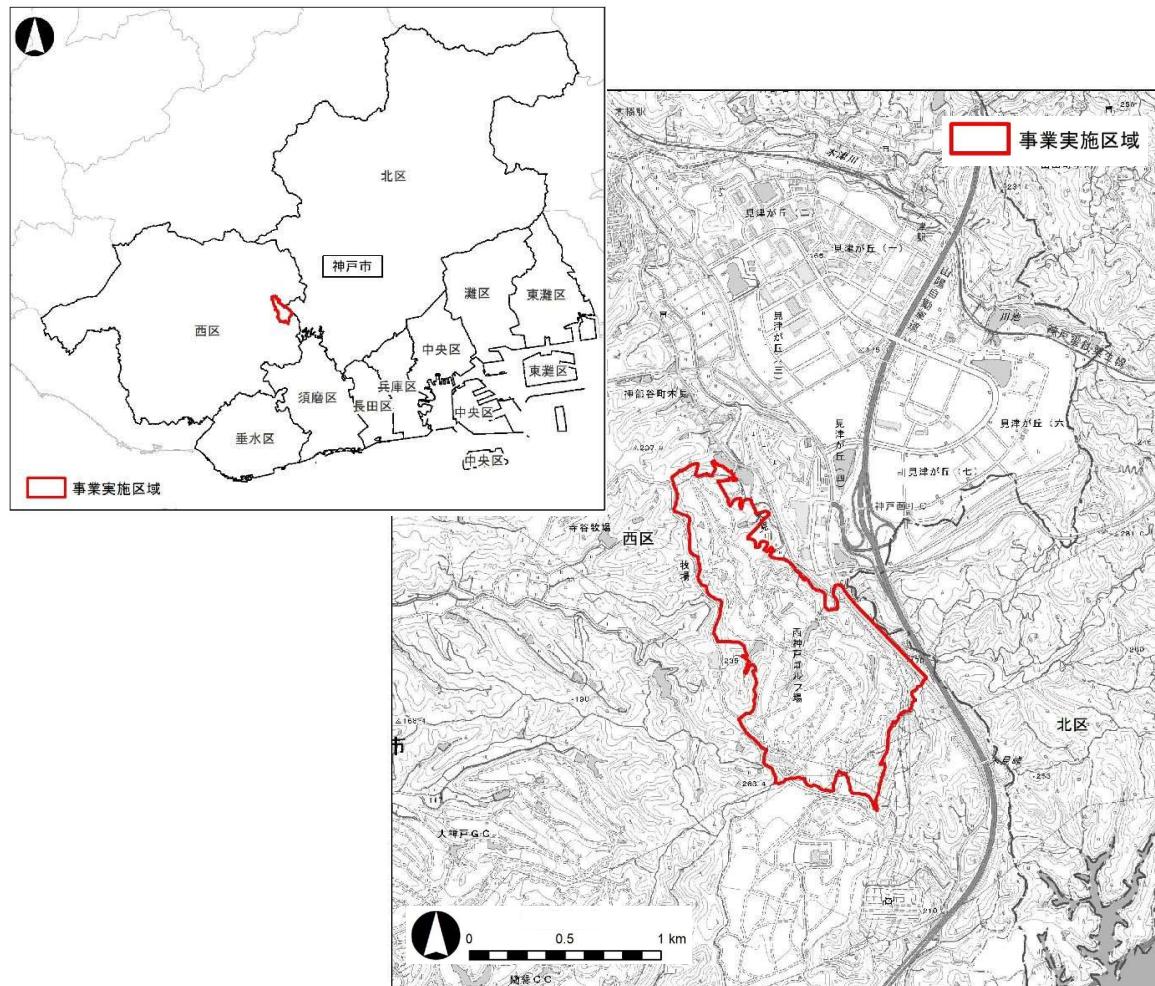
神 戸 市

目 次

1. 事業計画の概要	1
(1) 事業者	1
(2) 対象事業の名称	1
(3) 対象事業の種類及び規模	1
(4) 対象事業の位置	1
2. 工事計画	1
3. 環境に影響を及ぼす行為と環境要素の関連	2
4. 事後調査の実施内容	3
5. 事後調査結果の概要	4
(1) 大気質	4
(2) 騒音	4
(3) 振動	6
(4) 水質	8
(5) 植物	9
(6) 動物	14
(7) 生態系	20
(8) 廃棄物等	21
(9) 地球温暖化	21
(10) その他（地域交通）	22

1. 事業計画の概要 (事後調査報告書 p. 1-1~)

- (1) 事業者 : 神戸市
 (2) 対象事業の名称 : (仮称) 西神戸ゴルフ場を転活用した産業団地整備事業
 (3) 対象事業の種類及び規模 : 工業団地及び流通業務団地の造成、全体面積：約 100ha
 (4) 対象事業の位置 : 兵庫県神戸市西区押部谷町木見



2. 工事計画 (事後調査報告書 p. 1-9)

工事は令和6年度から開始し、令和14年度に完了する計画である。

工事内容	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
準備工										
構造物撤去工										
土工										
防災工・調整池工										
法面工										
法面排水工										
道路工・擁壁工										
下水道工										
宅地内排水工										
関連施設工										
建築工										

3. 環境に影響を及ぼす行為と環境要素の関連 (事後調査報告書 p. 1-11)

環境要素の区分		行為等の区分		工 事		存在・供用	
		樹木の伐採	土工事・建設工事等	工事関係車両の走行	施設の存在	施設の稼働	施設関係車両等の走行
大気質	二酸化窒素 (NO ₂)、浮遊粒子状物質 (SPM)		○	○		○	○
	粉じん		○				
騒音・低周波音	建設作業騒音		○				
	施設騒音					○	
	道路交通騒音			○			○
	施設低周波音						
振動	建設作業振動		○				
	施設振動					○	
	道路交通振動			○			○
悪臭	特定悪臭物質、臭気濃度						
水質	浮遊物質量 (SS)		○				
底質							
地下水質							
土壤							
地形・地質	土地の安定性の変化の程度		○				
地盤							
日照							
風害							
植物	植生・植物相	○	○		○		
動物	動物相	○	○		○		
生態系	上位性・典型性・特殊性の代表種、種多様性	○	○		○		
人と自然との触れ合い活動の場			○		○		
景観	景観構成要素、可視特性				○		
文化環境	指定文化財、埋蔵文化財等		○				
廃棄物等	建設廃棄物、産業廃棄物	○	○				
地球温暖化	温室効果ガス (二酸化炭素)	○	○			○	
オゾン層破壊	特定フロン等						
その他	地域交通			○			○

注) ○ : 環境影響評価項目として選定した項目

4. 事後調査の実施内容（事後調査報告書 p. 2-1）

環境要素	環境調査		施設調査	
大気質	建設機械の稼働に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質 ・現地調査地点（1地点） ・建設機械の稼働に伴う影響が最大となる時期に1回	—	工事中の環境保全措置の実施状況	○
	建設機械の稼働に伴う粉じん（降下ばいじん） ・予測地点（1地点） ・建設機械の稼働に伴う影響が最大となる時期に1回	—	工事中の環境保全措置の実施状況	○
騒音	建設機械の稼働に伴う騒音 ・予測地点（1地点）* ・建設機械の稼働に伴う影響が最大となる時期に1回	○*	工事中の環境保全措置の実施状況	○
	工事関係車両の走行に伴う騒音 ・予測地点（3地点） ・工事関係車両の走行に伴う影響が最大となる時期に1回	—	工事中の環境保全措置の実施状況	○
振動	建設機械の稼働に伴う振動 ・予測地点（1地点） ・建設機械の稼働に伴う影響が最大となる時期に1回	○*	工事中の環境保全措置の実施状況	○
水質	土工事に伴う濁水（浮遊物質量（SS）） ・予測地点（河川及びため池各1地点） ・濁水の発生が最大となる時期（土工事の最盛期）に1回	—	工事中の環境保全措置の実施状況	○
植物	移植及び播種対象種の生育状況 ・事業実施区域及びその周辺の移植及び播種箇所 ・移植及び播種後の各種の調査適期（花期・結実期）	○	工事前の移植及び播種の実施状況 工事中の環境保全措置の実施状況	○
動物	事業実施区域周辺で繁殖の可能性がある猛禽類の繁殖状況 ・事業実施区域周辺で確認された古巣 ・工事前及び工事中の繁殖期	○	工事中の環境保全措置の実施状況	○
	生息・繁殖環境を整備した両生類の生息状況 ・生息・繁殖環境を整備した箇所 ・移設後の各種の調査適期（繁殖期）	○	工事中の環境保全措置の実施状況	○
生態系	事業実施区域周辺で繁殖の可能性がある猛禽類の繁殖状況 ・事業実施区域周辺で確認された古巣 ・工事前及び工事中の繁殖期	○	工事中の環境保全措置の実施状況	○
	生息・繁殖環境を整備した両生類の生息状況 ・生息・繁殖環境を整備した箇所 ・移設後の各種の調査適期（繁殖期）	○	工事中の環境保全措置の実施状況	○
廃棄物等	—	—	工事中の環境保全措置の実施状況	○
地球温暖化	—	—	工事中の環境保全措置の実施状況	○
その他 (地域交通)	工事関係車両の走行に伴う地域交通 ・予測地点（8地点） ・工事関係車両の走行に伴う影響が最大となる時期に1回	—	工事中の環境保全措置の実施状況	○
	工事関係車両の走行に伴う歩行者等の安全 ・予測地点（主要な歩行ルート沿道） ・工事関係車両の走行に伴う影響が最大となる時期に1回	—	工事中の環境保全措置の実施状況	○

注) ○: 令和6年度までに実施した項目

—: 令和6年度までに実施しなかった項目

*: 令和6年度は、建設機械の稼働に伴う影響が最大となる時期には該当しなかったが、住居の近隣で伐開・除根等の準備工事が実施されることから、近隣住民に配慮して令和6年度中で影響が最大となる時期に騒音（建設機械の稼働に伴う騒音）及び振動の環境調査を実施した。

5. 事後調査結果の概要（事後調査報告書 p. 4-1～）

(1) 大気質（事後調査報告書 p. 4-1～）

1) 調査結果

調査項目		調査時期・地点	調査結果等
施設調査	<p>工事中の以下の環境保全措置の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排出ガス対策型建設機械の採用 ・建設機械の整備・点検 ・建設機械の取り扱いの教育・指導 ・散水の実施 ・造成箇所の早期転圧 	<p>【調査時期】 工事中の各年度</p> <p>【調査場所】 環境保全措置の実施範囲</p>	<p>以下の環境保全措置を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排出ガス対策型建設機械の採用 ・建設機械の整備・点検 ・建設機械の取り扱いの教育・指導 ・散水の実施 ・造成箇所の早期転圧

2) 調査結果の評価

- ・令和6年度は、建設機械の稼働に伴う影響が最大となる時期には該当しなかったために環境調査は実施しておらず、今後実施する予定となっている。
- ・一方、令和6年度は施設調査を実施しており、工事中の環境保全措置が適切に実施されていることを確認した。
- ・以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避・低減が図られていると考えられる。

(2) 騒音（事後調査報告書 p. 4-4～）

1) 調査結果

調査項目		調査時期・地点	調査結果等
環境調査	建設機械の稼働に伴う騒音	<p>【調査時期】 建設機械の稼働に伴う影響が最大となる時期</p> <p>・令和7年3月24日</p> <p>【調査場所】 予測地点（事業実施区域境界線上かつ近傍に住居が存在する地点）：1地点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点における騒音レベルの90%レンジの上端値（LA5）は48.8～51.8デシベルの範囲にあり、算術平均値で51デシベルとなっていた。 ・環境影響評価書における環境保全の目標及び予測結果を下回る結果となっていた。
施設調査	<p>工事中の以下の環境保全措置の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低騒音型建設機械の採用 ・建設機械の整備・点検 ・建設機械の取り扱いの教育・指導 ・工事関係車両の集中回避 ・工事関係車両の整備・点検 ・工事関係車両の運転の教育・指導 	<p>【調査時期】 工事中の各年度</p> <p>【調査場所】 環境保全措置の実施範囲</p>	<p>以下の環境保全措置を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低騒音型建設機械の採用 ・建設機械及び工事関係車両の整備・点検 ・建設機械の取り扱い及び工事関係車両の運転の教育・指導 ・工事関係車両の集中回避

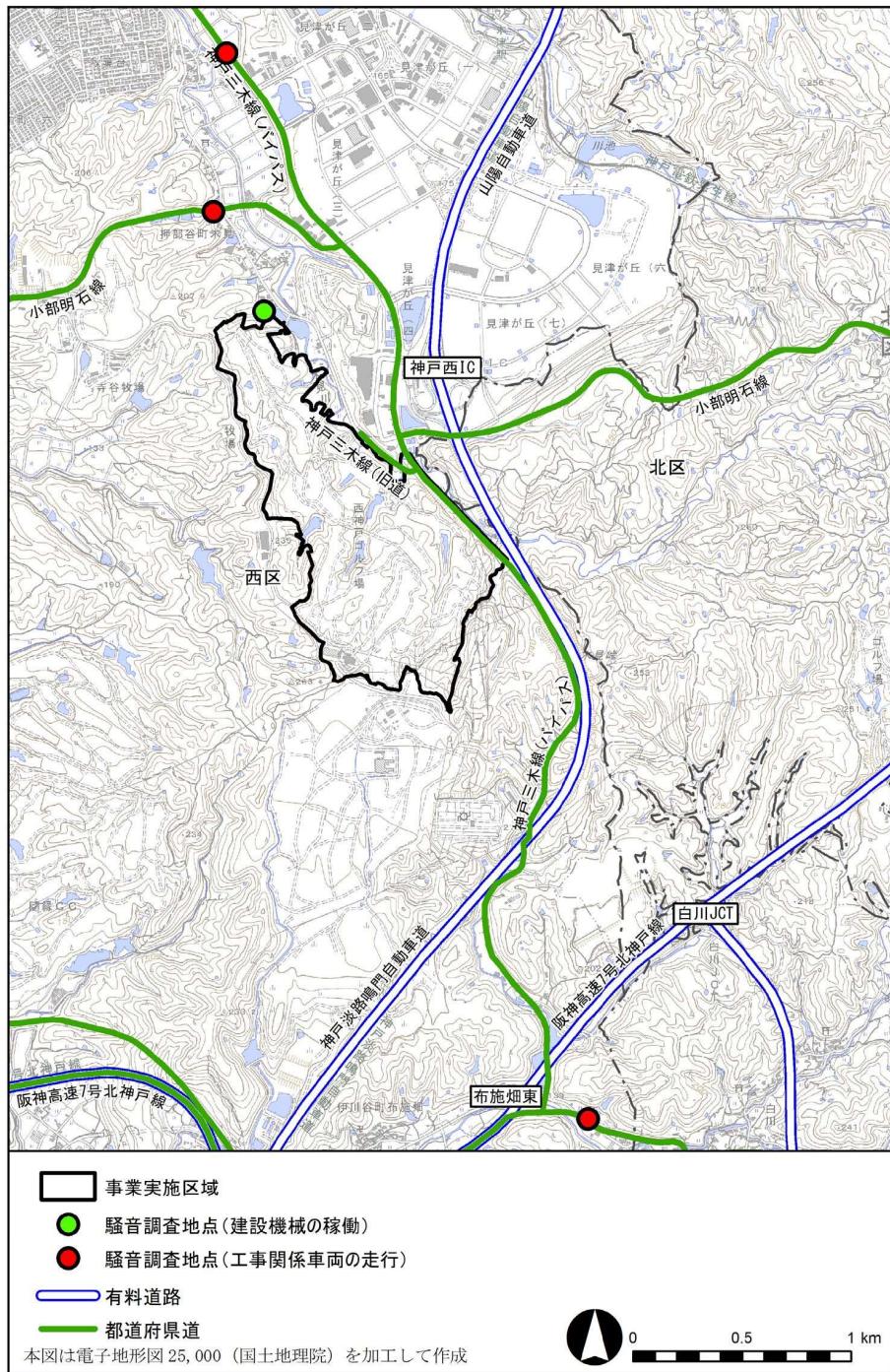


図 騒音調査地点

2) 調査結果の評価

- 令和6年度に実施した環境調査の結果、環境影響評価書における環境保全の目標としていた「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」の値を下回っていた。また、環境影響評価書における予測結果に対しても下回る結果となっていた。
- 施設調査では、工事中の環境保全措置が適切に実施されていることを確認した。
- 以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避・低減が図られていると考えられる。

(3) 振動（事後調査報告書 p. 4-8～）

1) 調査結果

	調査項目	調査時期・地点	調査結果等
環境調査	建設機械の稼働に伴う振動	<p>【調査時期】 建設機械の稼働に伴う影響が最大となる時期 ・令和7年3月24日</p> <p>【調査場所】 予測地点（事業実施区域境界線上かつ近傍に住居が存在する地点）：1地点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点における振動レベルの80%レンジの上端値（L10）は、すべての時間帯において25デシベル未満となっていた。 ・環境影響評価書における環境保全の目標及び予測結果を下回る結果となっていた。
施設調査	<p>工事中の以下の環境保全措置の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低振動型建設機械の採用 ・建設機械の整備・点検 ・建設機械の取り扱いの教育・指導 	<p>【調査時期】 工事中の各年度</p> <p>【調査場所】 環境保全措置の実施範囲</p>	<p>以下の環境保全措置を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設機械の整備・点検、建設機械の取り扱いの教育・指導 ・令和6年度において低振動型建設機械の使用はなかったが、今後も引き続き採用に向けた検討を行うこととしている。

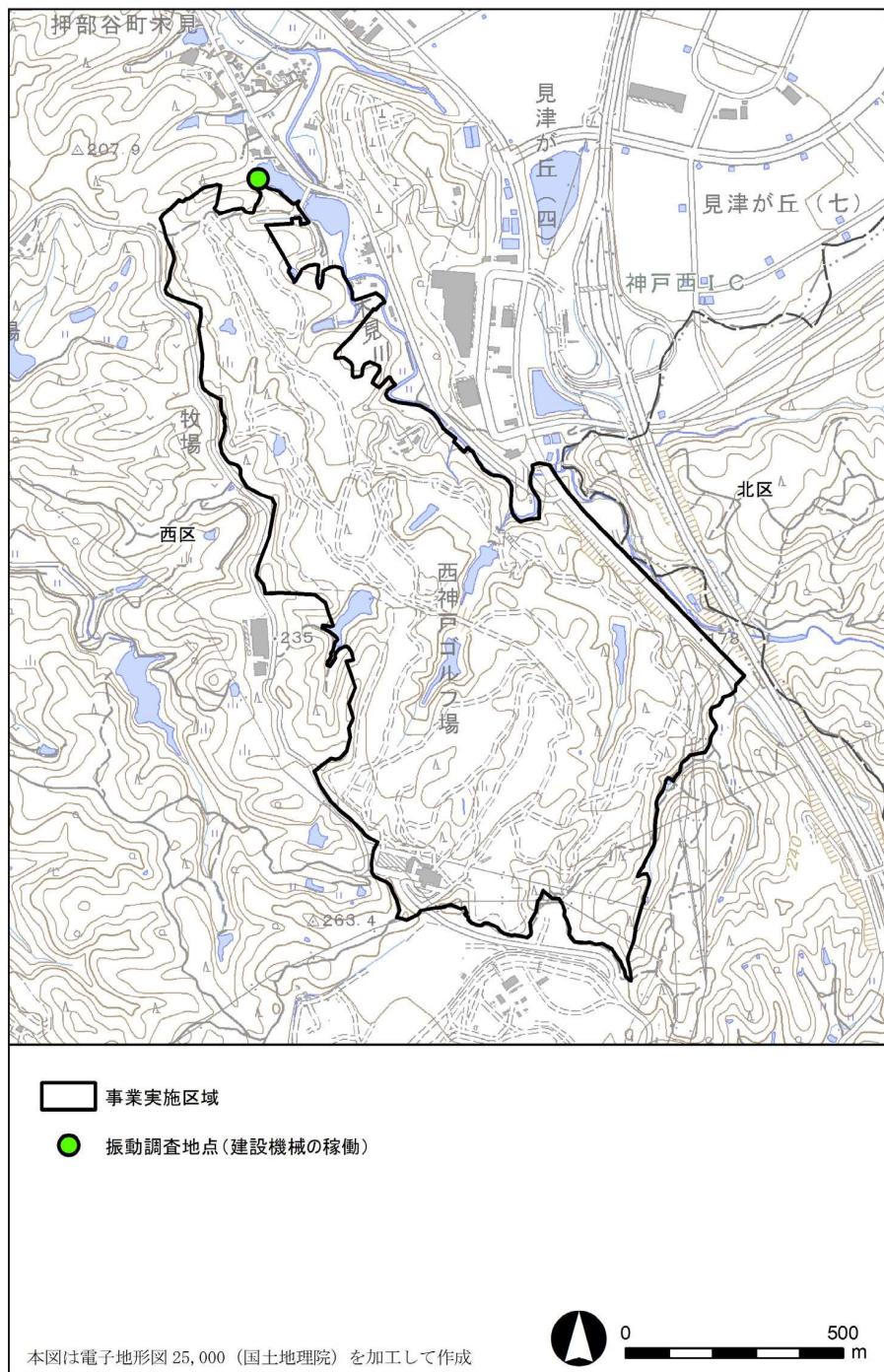


図 振動調査地点

2) 調査結果の評価

- 令和6年度に実施した環境調査の結果、環境影響評価書における環境保全の目標としていた「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準」の値を下回っていた。また、環境影響評価書における予測結果に対しても下回る結果となっていた。
- 施設調査では、低振動型建設機械の使用はなかったものの、引き続き採用に向けた検討を行うこととしており、工事中の環境保全措置が概ね適切に実施されていることを確認した。
- 以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避・低減が図られていると考えられる。

(4) 水質（事後調査報告書 p. 4-12～）

1) 調査結果

施設調査	調査項目	調査時期・地点	調査結果等
	工事中の以下の環境保全措置の実施状況	【調査時期】 工事中の各年度	以下の環境保全措置を実施している。
	・仮設沈砂池等の設置 ・造成箇所の早期転圧	【調査場所】 環境保全措置の実施範囲	・仮設沈砂池等の設置 ・造成箇所の早期転圧

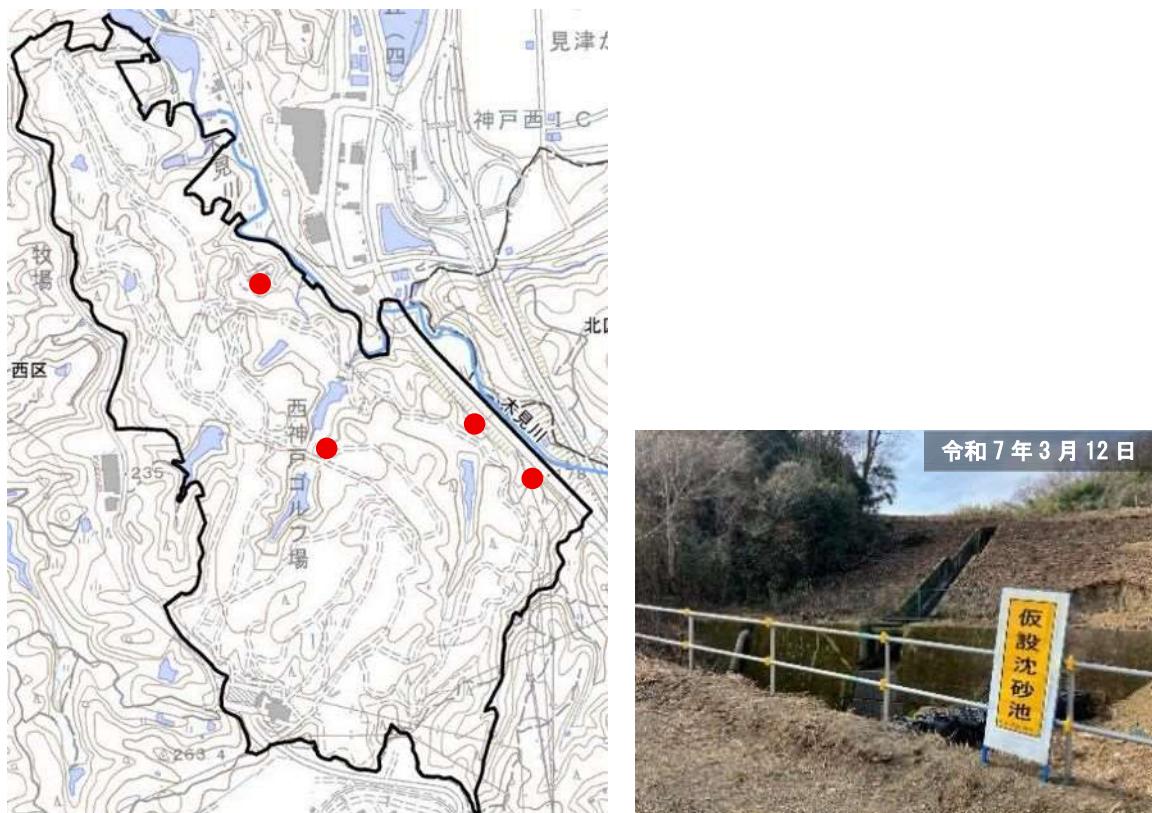


図 仮設沈砂池の設置位置と設置状況

2) 調査結果の評価

- 令和6年度は、濁水の発生が最大となる時期（土工事の最盛期）には該当しなかったために環境調査は実施しておらず、今後実施する予定となっている。
- 施設調査では、工事中の環境保全措置が適切に実施されていることを確認した。
- 以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避・低減が図られていると考えられる。

(5) 植物（事後調査報告書 p. 4-16～）

1) 調査結果

	調査・実施項目	調査等時期・地点	調査結果等
環境保全措置	<p>移植、播種等</p> <p>【対象種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマナ ・エビネ ・ギンラン ・ヒメイタビ ・ティショウソウ ・ノニガナ <p>(事後調査報告書 p. 4-16～)</p>	<p>【移植、播種時期】</p> <p>工事の進捗状況に応じた時期</p> <p>〔アマナ（移植）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月15日 ・令和7年3月24日 <p>〔エビネ（移植）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年12月18日 ・令和6年12月16日 <p>〔ギンラン（移植）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年10月23, 25日 ・令和6年10月10日 <p>〔ヒメイタビ（養生栽培）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年7月6日～（移植） ・令和6年11月21日 <p>〔ティショウソウ（移植）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年11月14日 ・令和6年11月21日（種子採取） ・令和5年12月18日 ・令和6年12月16日（播種） ・令和6年12月16日 <p>〔ノニガナ（種子採取）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年5月1, 17, 30日 ・令和6年6月13, 14日（播種） ・令和5年11月14日 ・令和6年7月5日 ・令和6年11月21日 <p>【移植、播種場所】</p> <p>事業実施区域内の改変区域外及びキーナの森</p>	<p>〔アマナ（一部養生栽培中）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月15日：2箇所に計280株を移植 ・令和7年3月24日：2箇所に計850株を移植 <p>〔エビネ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年12月18日：3箇所に計67株を移植 ・令和6年12月16日：3箇所に計214株を移植 <p>〔ギンラン〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年10月23, 25日：3箇所に計69株を移植 ・令和6年10月10日：3箇所に計46株を移植 <p>〔ヒメイタビ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年7月6日～：養生栽培（一部は継続中） ・令和6年11月21日：1箇所に計26株を移植 <p>〔ティショウソウ（一部養生栽培中）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年11月14日：3箇所に計75株を移植 ・令和6年11月21日：3箇所に計47株を移植 ・令和5年12月18日：約112粒を採取 ・令和6年12月16日：約64粒を採取 ・令和6年12月16日：令和5年12月18日に採取した約112粒を播種 <p>〔ノニガナ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年5月1, 17, 30日：計約64, 000粒を採取 ・令和6年6月13, 14日：約4, 000粒を採取 ・令和5年11月14日：2箇所に計50, 000粒を播種 ・令和6年7月5日：1箇所に約300粒を播種 ・令和6年11月21日：2箇所に計16, 000粒を播種

	調査・実施項目	調査等時期・地点	調査結果等
環境調査	<p>移植及び播種対象種の生育状況</p> <p>【対象種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマナ ・エビネ ・ギンラン ・ヒメイタビ ・テイショウソウ ・ノニガナ <p>(事後調査報告書 p. 4-35~)</p>	<p>【調査時期】 移植及び播種後の各種の調査適期 (○:花期、△:結実期)</p> <p>【アマナ】 ・令和6年4月1日(○) ・令和6年4月18日(△)</p> <p>【エビネ】 ・令和6年6月13, 14日(○) ・令和6年7月31日(△)</p> <p>【ギンラン】 ・令和6年6月13, 14日(○) ・令和6年9月26日(△)</p> <p>【テイショウソウ】 ・令和6年9月26日(○) ・令和6年11月19日(△)</p> <p>【ノニガナ】 ・令和6年4月1日(発芽期) ・令和6年6月13日(○、△)</p> <p>【調査場所】 事業実施区域及びその周辺の移植及び播種箇所</p>	<p>【アマナ】 ・令和6年4月1日： 2箇所で計166株を確認 ・令和6年4月18日： 2箇所で計120株を確認</p> <p>【エビネ】 ・令和6年6月13, 14日： 3箇所で計69株を確認 ・令和6年7月31日： 3箇所で計74株を確認</p> <p>【ギンラン】 ・令和6年6月13, 14日： 3箇所で計21株を確認 ・令和6年9月26日： 3箇所で計3株を確認</p> <p>【テイショウソウ】 ・令和6年9月26日： 3箇所で計33株を確認 ・令和6年11月19日： 3箇所で計27株を確認</p> <p>【ノニガナ】 ・令和6年4月1日： 確認なし(2箇所で計0株) ・令和6年6月13日： 確認なし(2箇所で計0株)</p>
施設調査	<p>工事中の以下の環境保全措置の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育地の改変の回避(保全対象:ハコネシダ、クルマシダ) ・施工時の配慮(保全対象:植物相全般) ・緑化(保全対象:植物相全般) ・移植及び播種(保全対象:アマナ、エビネ、ギンラン、ヒメイタビ、テイショウソウ、ノニガナ) <p>(事後調査報告書 p. 4-46)</p>	<p>【調査時期】 工事中の各年度</p> <p>【調査場所】 環境保全措置の実施範囲</p>	<p>以下の環境保全措置を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境影響評価時から土地利用計画が変更されていないため、ハコネシダ、クルマシダの生育地の改変の回避が図られている。 ・残置森林の確保による植物への施工時の配慮が図られている。 ・法面・緑地の確保による緑化が計画されている。 ・アマナ、エビネ、ギンラン、ヒメイタビ、テイショウソウ、ノニガナの移植及び播種が実施されている。

非公開

図 移植又は播種実施場所及び調査場所（事業実施区域内）

非公開

図 移植又は播種実施場所及び調査場所（キーナの森）

2) 調査結果の評価（事後調査報告書 p. 4-47）

- ・環境影響評価書に示された植物に関する移植・播種の環境保全措置については、令和6年度までに実施されている。
- ・令和6年度までに実施した環境調査の結果、各種の生育状況は以下のとおり確認されている。
 - ・アマナ …………… 移植個体数に対する確認個体数の割合は高くないものの、開花個体も確認されている。
 - ・エビネ …………… 果茎の伸長や結実している個体が複数確認されていることから概ね良好に生育していると考えられる。
 - ・ギンラン …………… 確認個体数が少なかったものの、本種は地上部が枯死しても地下部が生育し、次年度以降に地上部が出芽することがあることから、複数年のモニタリングが必要と考えられる。
 - ・ヒメイタビ ……… 環境調査は今後実施する予定である。
 - ・ティショウソウ … 移植地によって活着率に違いはあるものの、複数の開花・結実個体が確認されており、概ね良好に生育していると考えられる。
 - ・ノニガナ ……… 調査では生育が確認されなかった。移植地が本種の生育に適していない可能性もあるが、令和6年11月21日には、種子の保存や播種方法を改良した播種を行っており、環境調査は今後実施する予定である。
- ・施設調査では、工事中の環境保全措置が適切に実施されていることを確認した。
- ・以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避・低減が図られていると考えられる。

(6) 動物（事後調査報告書 p. 4-48～）

1) 調査結果

	調査・実施項目	調査等時期・地点	調査結果等
環境保全措置	<p>生息・繁殖環境の整備 (仮設小湿地整備)</p> <p>【対象種】 ・セトウチサンショウウオ ・ニホンヒキガエル ・アカガエル属 ・モリアオガエル</p> <p>(事後調査報告書 p. 4-48～)</p>	<p>【実施時期】 ・令和6年1月18～31日</p> <p>【整備位置】 事業実施区域内の改変区域外にある沢水が流れる谷地形</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大きさは約 3m×6m、最深部の水深は 30 cm程度 止水のためのベントナイトシートを敷設した上に土砂を 20 cm程度被せて整備 セトウチサンショウウオの産卵基盤や隠れ場所となる朽木や落ち葉を湿地内に投入 池上にモリアオガエルの卵の移設基質として竹材を配置
	<p>移設</p> <p>【対象種】 ・セトウチサンショウウオ ・ニホンヒキガエル ・アカガエル属 ・モリアオガエル</p> <p>(事後調査報告書 p. 4-50～)</p>	<p>【実施時期】 各種の産卵期から上陸までの時期</p> <p>【セトウチサンショウウオ】 ・令和6年2月28日 ・令和6年3月15日 ・令和6年4月1日 ・令和7年2月25日 ・令和7年3月17日 ・令和7年3月26日</p> <p>【ニホンヒキガエル】 ・令和6年2月28日： 3箇所に卵塊を計10個移設</p> <p>【アカガエル属】 ・令和6年3月15日： 1箇所に尾芽胚を1個移設</p> <p>【モリアオガエル】 ・令和6年4月1日： 3箇所に幼生を計500移設</p> <p>【アカガエル属】 ・令和6年3月15日： 1箇所に卵塊を計16個移設</p> <p>【モリアオガエル】 ・令和6年6月14日</p> <p>【移設場所】 仮設小湿地、事業区域内の改変区域外及び事業区域外において対象種の繁殖が可能と考えられる水域</p>	<p>【セトウチサンショウウオ】 ・卵塊及び幼生が確認されなかつたため移設なし</p> <p>【ニホンヒキガエル】 ・令和6年2月28日： 3箇所に卵塊を計10個移設</p> <p>【アカガエル属】 ・令和6年3月15日： 1箇所に尾芽胚を1個移設</p> <p>【モリアオガエル】 ・令和6年4月1日： 3箇所に幼生を計500移設</p> <p>【アカガエル属】 ・令和6年3月15日： 1箇所に卵塊を計16個移設</p> <p>【モリアオガエル】 ・令和6年6月14日： 5箇所に卵塊を計23個移設</p>

	調査・実施項目	調査等時期・地点	調査結果等
環境調査	<p>事業実施区域周辺で繁殖の可能性がある猛禽類の繁殖状況</p> <p>【対象種】 ・オオタカ</p> <p>(事後調査報告書 p. 4-60～)</p>	<p>【調査時期】 工事前及び工事中の繁殖期</p> <p>〔令和6年繁殖期〕 ・令和6年3月13, 14日 ・令和6年6月20, 21日</p> <p>〔令和7年繁殖期〕 ・令和7年3月24, 25日</p> <p>【調査場所】 事業実施区域周辺で確認された古巣及びその周辺：2地点</p>	<p>〔令和6年繁殖期〕 ・任意観察において過年度営巣地周辺でオオタカは確認されなかった。</p> <p>・営巣林踏査において過年度営巣地及びその周辺で使用の痕跡は確認されなかった。</p> <p>〔令和7年繁殖期〕 ・任意観察において過年度営巣地周辺でオオタカは確認されなかった。</p> <p>・営巣林踏査において過年度営巣地及びその周辺で使用の痕跡は確認されなかった。</p>
	<p>生息・繁殖環境を整備した両生類の生息状況</p> <p>【対象種】 ・セトウチサンショウウオ ・ニホンヒキガエル ・アカガエル属 ・モリアオガエル</p> <p>(事後調査報告書 p. 4-68～)</p>	<p>【調査時期】 移設後の各種の調査適期（繁殖期）</p> <p>〔セトウチサンショウウオ〕 〔ニホンヒキガエル〕 〔アカガエル属〕 ・令和6年3月15日 ・令和6年4月1日 ・令和6年4月18日 ・令和6年6月13日※ ※アカガエル属を対象に実施 ・令和7年3月26日 ・令和7年4月15日</p> <p>〔モリアオガエル〕 ・令和6年7月23日</p> <p>【調査場所】 生息・繁殖環境を整備した箇所</p>	<p>〔セトウチサンショウウオ〕 ・卵塊及び幼生は確認されなかった</p> <p>〔ニホンヒキガエル〕 ・令和6年3月15日： 2箇所で卵塊2個と尾芽胚計3個を確認 ・令和6年4月1日： 1箇所で幼生5を確認 ・令和6年4月18日： 2箇所で幼生計130を確認 ・令和7年3月26日： 2箇所で幼生20以上を確認 ・令和7年4月15日： 1箇所で幼生100以上を確認</p> <p>〔アカガエル属〕 ・令和6年3月15日： 1箇所で卵塊4個を確認 ・令和6年4月1日： 1箇所で幼生5を確認 ・令和6年4月18日： 確認なし ・令和6年6月13日： 1箇所で幼体3を確認 ・令和7年3月26日： 確認なし ・令和7年4月15日： 1箇所で幼生21を確認</p> <p>〔モリアオガエル〕 ・令和6年7月23日： 5箇所で幼生計129と幼体1を確認</p>

	調査・実施項目	調査等時期・地点	調査結果等
施設調査	<p>工事中の以下の環境保全措置の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生息地の改変の回避（保全対象：ミゾゴイ） ・施工時の配慮（保全対象：動物相全般） ・緑化（保全対象：動物相全般） ・濁水の流出防止（保全対象：鳥類、両生類、魚類、水生昆虫類、底生動物） ・生息・繁殖環境の整備及び移設（保全対象：両生類（セトウチサンショウウオ、ニホンヒキガエル、アカガエル属、モリアオガエル）） <p>(事後調査報告書 p. 4-75～)</p>	<p>【調査時期】 工事中の各年度</p> <p>【調査場所】 環境保全措置の実施範囲</p>	<p>以下の環境保全措置を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境影響評価時から土地利用計画が変更されていないため、ミゾゴイの生息地の改変の回避が図られている。 ・残置森林の確保による動物への施工時の配慮が図られている。 ・法面・緑地の確保による緑化が計画されている。 ・濁水の流出防止のために仮設沈砂池を設置している。 ・両生類の繁殖環境としての仮設小湿地を整備しており、今後は、仮設小湿地と同じ場所に恒久的な湿地（ビオトープ等）の整備が予定されている。 ・セトウチサンショウウオは卵塊及び幼生が確認されなかったことから移設は実施していないが、ニホンヒキガエル、アカガエル属、モリアオガエルは、移設作業を実施している。

非公開

図 仮設小湿地の整備状況

非公開

図 両生類の移設実施場所及び調査場所



非公開

図 オオタカの確認位置（令和6年繁殖期）



非公開

図 オオタカの確認位置（令和7年繁殖期）

2) 調査結果の評価（事後調査報告書 p. 4-76）

- ・環境影響評価書に示された動物に関する環境保全措置については、両生類の生息・繁殖環境としての仮設小湿地を整備しており、今後は、恒久的な湿地（ビオトープ等）の整備が予定されている。また、両生類を対象とした移設が実施されている。
- ・令和6年度までに実施した環境調査の結果、各種の生育状況は以下のとおり確認されている。
 - ・オオタカ…………… 令和6～7年繁殖期の調査において事業実施区域周辺での繁殖は確認されていない状況となっている。
 - ・両生類※…………… 複数の移設先において生息が確認されている。
※ニホンヒキガエル、アカガエル属、モリアオガエル
 - ・セトウチサンショウウオ…… 生息が確認されず、事業実施区域内に生息する個体数あるいは繁殖個体数が少ない状況であると考えられる。
- ・施設調査では、工事中の環境保全措置が適切に実施されていることを確認した。
- ・以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避・低減が図られていると考えられる。

(7) 生態系（事後調査報告書 p. 4-77～）

1) 調査結果

	調査項目	調査時期・地点	調査結果等
環境調査	事業実施区域周辺で繁殖の可能性がある猛禽類の繁殖状況 【対象種】 ・オオタカ	(6) 動物における環境調査の内容と同じ	(6) 動物における環境調査の内容と同じ
	生息・繁殖環境を整備した両生類の生息状況 【対象種】 ・セトウチサンショウウオ ・ニホンヒキガエル ・アカガエル属 ・モリアオガエル	(6) 動物における環境調査の内容と同じ	(6) 動物における環境調査の内容と同じ
施設調査	工事中の以下の環境保全措置の実施状況 ・生息地の改変の回避（保全対象：ミゾゴイ） ・施工時の配慮（保全対象：植物相全般、動物相全般） ・緑化（保全対象：植物相全般、動物相全般） ・改変面積の縮小（保全対象：植物相全般、動物相全般） ・濁水の流出防止（保全対象：鳥類、両生類、魚類、水生昆虫類、底生動物） ・生息・繁殖環境の整備及び移設（保全対象：セトウチサンショウウオ）	【調査時期】 工事中の各年度 【調査場所】 環境保全措置の実施範囲	以下の環境保全措置を実施している。 ・環境影響評価時から土地利用計画が変更されていないため、ミゾゴイの生息地の改変の回避が図られている。 ・改変面積の縮小に向けた残置森林の確保が図られている。 ・残置森林を確保することによる植物や動物への施工時の配慮が図られている。 ・法面・緑地の確保による緑化が計画されている。 ・濁水の流出防止のために仮設沈砂池を設置している。 ・セトウチサンショウウオの繁殖環境としての仮設小湿地を整備しており、今後は、仮設小湿地と同じ場所に恒久的な湿地（ビオトープ等）の整備が予定されている。

2) 調査結果の評価

- ・令和6年度までに実施した環境調査の結果、事業実施区域周辺で猛禽類（オオタカ）の繁殖は確認されていない。また、整備した仮設小湿地では、移設した両生類の幼体や自然分布する個体による卵塊が確認されており、両生類の生息・繁殖環境となっている。
- ・施設調査では、工事中の環境保全措置が適切に実施されていることを確認した。
- ・以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避・低減が図られていると考えられる。

(8) 廃棄物等 (事後調査報告書 p. 4-79~)

1) 調査結果

調査項目		調査時期・地点	調査結果等
施設調査	<p>工事中の以下の環境保全措置の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伐採樹木の再資源化の促進 ・廃棄物の適正処理 ・残土の再利用 ・廃棄物の分別による再資源化等の促進 	<p>【調査時期】 工事中の各年度</p> <p>【調査場所】 環境保全措置の実施範囲</p>	<p>以下の環境保全措置を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伐採樹木の再資源化 (再資源化率: 約99%) ・廃棄物の適正処理 (再資源化率: 80%) ・残土の再利用 (残土量: 0m³) ・廃棄物の分別による再資源化等の促進 ・環境影響評価書における廃棄物の発生量や残土量の予測結果を下回っており、再資源化率の予測結果を上回っている。

2) 調査結果の評価

- ・施設調査では、工事中の環境保全措置が適切に実施されていることを確認した。
- ・以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避・低減が図られていると考えられる。

(9) 地球温暖化 (事後調査報告書 p. 4-82~)

1) 調査結果

調査項目		調査時期・地点	調査結果等
施設調査	<p>工事中の以下の環境保全措置の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑化の推進 ・低燃費型建設機械等の採用 ・建設機械の取り扱いの教育・指導 ・建設機械の整備・点検 	<p>【調査時期】 工事中の各年度</p> <p>【調査場所】 環境保全措置の実施範囲</p>	<p>以下の環境保全措置を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境影響評価時から法面・緑地の確保による緑化が計画されており、変更されていない。 ・低燃費型建設機械の採用 (使用割合: 100%) ・建設機械の整備・点検 ・建設機械の取り扱いの教育・指導

2) 調査結果の評価

- ・施設調査では、工事中の環境保全措置が適切に実施されていることを確認した。
- ・以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避・低減が図られていると考えられる。

(10) その他（地域交通）（事後調査報告書 p.4-83～）

1) 調査結果

	調査項目	調査時期・地点	調査結果等
施設調査	<p>工事中の以下の環境保全措置の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事関係車両の集中回避 ・走行時間帯の管理 ・通勤車両の抑制 ・一部走行ルートの限定 ・工事関係車両の走行ルート及び走行時間の厳守 ・工事関係車両の運転の教育・指導 ・交通誘導員による工事関係車両等の誘導 ・工事計画の周知徹底 	<p>【調査時期】 工事中の各年度</p> <p>【調査場所】 環境保全措置の実施範囲</p>	<p>以下の環境保全措置を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事関係車両の集中回避や走行時間帯の管理、通勤車両の抑制、一部走行ルートの限定、工事関係車両の走行ルート及び走行時間の厳守のためのルール化と、工事関係者への掲示 ・工事関係車両の運転の教育・指導 ・工事実施区域入り口における交通誘導員による工事関係車両等の誘導 ・地域住民に対する工事計画の周知徹底 ・環境影響評価書における工事関係車両の走行に伴う地域交通の予測に用いた交通量は、予測条件を下回っている。

2) 調査結果の評価

- ・令和6年度は、工事関係車両の走行に伴う影響が最大となる時期には該当しなかったために環境調査は実施しておらず、今後実施する予定となっている。
- ・施設調査では、工事中の環境保全措置が適切に実施されていることを確認した。
- ・以上より、事業者として可能な限り環境影響の回避・低減が図られていると考えられる。